校長室だより　　２３号　　平成２６年９月５日

わせだっ子

夏休み終了　～前期後半の始まりです！！～

楽しかった夏休みもあっという間に終わり、８月２７日（水）より前期後半が始まりました。輝く笑顔の子ども達が、学校に戻ってきました。大きなけがや病気もなく充実した夏休みを送ることができたのでしょう。これもみな、保護者の皆様・地域の皆様のお陰と心より感謝申しあげます。

これから運動会の練習が始まります。朝会で、運動会は自分たちが４月から身につけてきた学力・体力・心の３つの力を発揮する場であり、すばらしい運動会になった時、満足できる前期のまとめができると伝えました。そのために、合い言葉『わせだ』を忘れず、実りの秋に向けて一歩、また一歩と今から歩を進め、さらに力を付けてほしいと願っています。

この度の災害で犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被害に遭われた方々にお見舞い申しあげます。

私達が日常の学校生活を送ることができる有り難さを改めて感じます。わせだっ子とともに過ごせるこの時と場をいただけることに感謝し、子ども達が自分を大切にし自分を輝かせることのできる日々を送ることができるよう、教職員一同心を合わせ力を尽くして参ります。

皆様のご協力をこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

＜　夏休みの行事から　＞

〔サマースクール〕

７月２２日（月）から２４日（水）の３日間、４年生以上が参加して、苦手な算数や夏の課題に取り組んだり科学研究について考えたりするサマースクールを行いました。計２４０名の児童が参加し、指導に全教職員があたりました。各教室はしいんと静まりかえり真剣な雰囲気が伝わってきました。中には、友達同士教え合う姿も見られ、大変嬉しく思いました。きっとこの夏休みには、いろいろなことにチャレンジしてくれたことでしょう。

〔水泳教室〕

７月２２日（月）・２３日（火）に４年生で泳力が１０m未満、５・６年生で２５m未満の子ども達を対象に今年も水泳指導を行いました。２５mを泳げるようになった子も、残念ながら泳げなかった子も、目標に向かって精一杯取り組んでいました。何度もチャレンジし、１５名が見事２５mを泳ぎ切りました。目標に向かって苦手なことに挑戦し、一生懸命に取り組むという姿勢は、これからの学校生活に生かされると思います。みんなよく頑張りました。

〔第３０回　早稲田学区盆踊り大会〕

７月２６日（土）・２７日（日）の両日、９号棟広場で今年も盛大に盆踊り大会が開催されました。子ども達は、お家の皆様や友達と連れだって楽しそうに売店を回っていました。多くの中・高生や転校した子が、友達と一緒に楽しんでいる姿もありました。早稲田小ＰＴＡや各町内会の皆様には、事前の計画や準備、そして当日販売や後片付けと、暑い中本当にお世話様になりました。教職員も、少しだけ売り上げに貢献？できるように売店のお手伝いをさせていただくことができました。有り難うございました。

ＰＴＡ売店にて

地域の皆様のご尽力で「わせだっ子」が集い楽しむ機会を作っていただけることに心より感謝申しあげます。

子ども達の『キッズソーラン』が元気よく広場に登場しました。また、祭りを盛り上げる太鼓の音が、空高く響いていました。ばちさばきも出番を待つ姿勢もすばらしく、日頃の練習を頑張っていることがよく分かりました。

早稲田盆太鼓組（通称：わせぼんだいこ）のメンバーを紹介します。

６年生	加地	花衣					
５年生	藤井	美羽	新上	千尋	宮崎	未夏	中岡	玲奈
	寅山	緋里						
４年生	鈴木	心彩	梅田	凛華	吉原	詩織	久山	朝生
３年生	林	奏直	横山	和樹	奥田	龍介	宮崎	柊平
	敦坂	光稀	阿土	晴香	高市	真優		
２年生	小東	夢果						
１年生	奥田	京介	伊藤	沙綾	沓木	優菜		

〔牛田慰霊祭で折り鶴づる献納〕

８月５日（月）牛田公園で行われる原爆慰霊祭で、本校の折り鶴を献納しました。雨の中、児童会６年生の河合 勇祐くん、山本 栞さん、５年生の宮崎 未夏さん、新上 千尋さんが早稲田小学校を代表して折り鶴を献納し平和への祈りを捧げました。

早稲田小の一人一人が心を込めて折った鶴が、公園を訪れる人々に平和への思いを伝えてくれることでしょう。

〔８月６日の平和への願い〕

８月６日（火）の登校日は、被爆についての知識の継承を図るとともに全児童で平和について考える日です。今年は残念ながら大雨警報のため登校を中止し、各家庭での平和を祈る日となりました。そのため、２８日（木）のテレビ朝会で牛田慰霊祭の報告、本校６年生児童代表 大下 優香さんの『早稲田小学校児童平和宣言』と校長の話を聞き、この度の災害で亡くなられた方のご冥福もあわせて祈り黙祷しました。その後、「アオギリの歌」を心を込めて歌いました。

これからも、ヒロシマの子として平和を求め続ける心を育てるとともに、命を大切にする子どもを育てていきたいと思います。